

## ボン宣言概要

ESD 世界会議（平成 21 年 3 月 31 日～4 月 2 日 於 ボン）における成果文書として「ボン宣言」がとりまとめられた。同宣言では、ESD（Education for Sustainable Development）の意義、これまでの進捗等に言及するとともに、下記の行動を呼びかけた。

また、同宣言最終パラグラフにおいて、ユネスコとの共催により国連 ESD の 10 年（UNDESD）締めくくり会合を開催するとの日本政府の意向を歓迎する旨が明記された。

※ 正確な記載についてはボン宣言本文（別添）を参照のこと

### 政策レベルでの行動の呼びかけ

- あらゆる教育、質の教育への ESD の貢献促進、特に ESD と EFA の連携促進
- SD（Sustainable Development）や ESD への社会の意識と理解の向上
- ESD 支援のための資源、資金の結集
- 国家や地域レベルでの SD への対処のための教育や訓練システムの再構築  
様々なセクター、省庁の連携による ESD 政策の確立、実施
- 文化多様性を尊重した、既存の ESD 実施のための仕組みや協力体制の強化

### 実践レベルでの行動の呼びかけ

- 公教育やあらゆる教育に SD の課題を組み込んでいくことへの支援
- ESD を教員養成や教員研修に組み込むための、教育プログラム等の再構築
- 研究、モニタリング及び評価の戦略の整理並びに優良事例の共有及び評価など、確たる根拠に基づく政策対話の奨励や、国家レベルでの ESD 指標の確立
- 職業訓練や教育に ESD を組み込むための連携体制の発展・拡大及びそのための市民社会、行政、民間企業や NGO 等との連携強化
- ESD の推進への青少年の参画促進
- 市民社会の貢献、役割の強化
- ESD における伝統的な知識や地域の知識の果たす役割に関する正当な評価
- ESD を通じての男女共同参画の推進
- ESD のネットワークを通じた知の再構築
- ESD に高等教育機関や研究ネットワークを巻き込むことによる、ESD の科学的卓越性、研究や新しい知の確立の支援と促進、モデルプロジェクトの実施
- 「国連 ESD の 10 年」の期間終了後も ESD の取組が継続されるための制度的なメカニズムの構築
- 国連システムが有する活用可能な専門的視点との連動
- SD に関連した重要かつ緊急の課題に対処するための教育、研修システムにおける取組の強化

## ユネスコへの要請

- UNEP、UNU や EFA 支援機関（UNICEF、UNDP、UNFPA、世界銀行）等の他の国際機関と協力しながら、国際実施計画に基づいたユネスコの UNDESD におけるリーダーシップ及び調整機能の強化
- 能力育成や国家戦略策定への政策的助言、モニタリングと評価、優良事例の収集・共有、アドボカシーとパートナーシップの構築を通じて UNDESD の実施を支援
- G8 や G20、EFA ハイレベルグループ、国連機関長会議、UNESCO 世界会議などの国際会議や交渉の場において、ESD を議題として提示又は推進
- UNESCO の長期プログラム及び戦略への ESD の統合のために、MAB や世界遺産、TTISSA、ユネスコ・スクールなど既存の UNESCO 関係機関が有する・知見を活用
- ESD 関連研究の推進、モニタリング・評価システムの確立、UNDESD を成功に導く国家戦略や実践の確立に向けたイニシアチブの発揮
- DESD の枠組みの中で、気候変動に関する教育を国際的により高い課題に位置づけるための取組の強化

(了)